



レッドリボンは、HIV感染者・エイズ患者への理解と支援の象徴です。

令和4年における福岡県内のHIV感染者・エイズ患者報告数等の情報を公表します (令和5年2月28日現在、速報値)

福岡県では、エイズ予防対策の一環として、県内（北九州市・福岡市・久留米市を含む）のHIV感染者・エイズ患者報告数等の情報を年2回公表しています。

令和4年の報告数等

- (1) HIV感染者は46名、エイズ患者は17名でした。昨年と比べ、HIV感染者では17名の増加、エイズ患者では8名の減少となりました（別添（1）参照）。
- (2) 年代別でみると、HIV感染者は20～30代が全体の80.4%を占めています（37/46名）。また、エイズ患者は30～60代でみられ、年代間での大きな偏りはありません。HIV感染者は若い世代で、エイズ患者は壮年～高年世代に多いという傾向が見られます（別添（2）参照）。
- (3) 国籍別・性別でみると、日本人男性が最も多く全体の92.1%を占めています（58/63名）。（別添（3）参照）。
- (4) 推定される感染経路は、同性間性的接触（異性間性的接触を含む）が最も多く全体の66.7%を占めています（42/63名）。続いて異性間性的接触が20.6%（13/63名）でした（別添（4）参照）。
- (5) 相談・検査件数については、令和3年と同様に、新型コロナウイルス感染症対応のため、一部保健所で検査を休止したこと等もあり、少ない件数に留まっています（別添（5）（6）参照）。

上半期（1月～6月）
HIV感染者：30名
エイズ患者：9名

下半期（7月～12月）
HIV感染者：16名
エイズ患者：8名

HIV感染症・エイズの治療は飛躍的に進歩しています

HIVは感染力が弱く、性行為以外の社会生活で感染することはありません。

また、感染しても、早期に発見し適切な治療を継続すれば、エイズの発症を防いだり遅らせることができ、感染前と変わらない日常生活を送ることができます。

早期発見が大事！HIV抗体検査を受けましょう！

福岡県は全国に比べて、HIV感染者とエイズ患者の合計に占めるエイズ患者の割合が比較的高く、HIV感染に気付かないまま日常生活を送っている人が多いと考えられます。感染に早期に気付くためには、HIV抗体検査を受けることが重要です。

県内の保健所では、**無料・匿名**でエイズ相談とHIV抗体検査を実施しています。

このうち9か所の保健所では、通常1週間かかる検査の結果が、約1時間で分かる迅速検査を実施しています。（別紙参照）

※新型コロナウイルス感染症への対応等により、急きょ検査を中止することがあります。

検査をご希望の場合は、事前に電話にて、検査の実施状況について各保健所へご確認ください。

◆別紙 **福岡県内のエイズ・性感染症検査実施保健所一覧** 参照

エイズは、STD（性感染症）のひとつで、誰でも感染する可能性がある病気です。HIVに感染しただけではほとんど症状がないため、気付かず過ごしているかもしれません。

感染の不安がある方は、早めに検査に行きましょう。